

尊光寺報

第134号
令和3年12月

徳島県阿波市市場
町大野島字天神41
尊光寺

報恩講法要

尊光寺の報恩講法要は、左の日程にてお勤めいたします。どなた様もお誘い合わせの上、お参りくださいますようお願いいたします。

【12月18日（土）】

午後1時より法要・法話

午後5時よりお斎

午後6時より遠夜法要・法話・御伝鈔拝読解説

【12月19日（日）】

午前10時より門徒総永代経法要・法話

お昼頃お斎

午後1時より御満座法要・法話・御伝鈔拝読解説

報恩講は、宗祖親鸞聖人のご命日をご縁として、親鸞聖人の遺徳を讃え、南無阿弥陀仏のお念仏の教えに出会えたことを慶ばせていただく、浄土真宗の大切な法要です。

【法話講師】川上順之師

（広島県法泉寺）

布教使としてバリバリ活躍中のイケメン。優しい語り口調で、難しいと感じる仏教の話もスツと心に届くと評判の若手の先生です。

昨年はコロナウイルスの感染拡大をうけ、短縮日程にて法要を勤めましたが、今年是对策を行いながら通常日程にて勤めさせていただけます。手洗い、うがい、マスク着用の上お参りください。

【お当番】八幡組です。よろしくお願ひ致します。

（大野島・八幡・定松・伊月・山野上・切幡・古田）

正信偈講座②

（赤い経本一四六）

弥陀仏本願念仏

信楽受持甚以難

邪見驕慢悪衆生

難中之難無過斯



【訓読】
弥陀仏の本願念仏は、邪見・驕慢の悪衆生、信楽受持すること、はなはだもつて難し。難のなかの難これに過ぎたるはなし。

【現代語訳】
阿弥陀仏の「必ず救う我にまかせよ、我が名を称えよ」という本願念仏のお救いを、おごり・たかぶり・よこしまな心の者は、阿弥陀さまの願いをはからい疑つてしまい、信じようこぶことが難しい。難の中の難であり、これ以上難しいことはないほど難しい。

前回は、「仏言広大勝解者 是人名分陀利華」の部分で聞いた、白い蓮華のような尊い姿だ」と誉めてくださると味わいました。

今回は続く、「弥陀仏本願念仏 邪見 驕慢 悪衆生 信楽受持甚以難 難中之難無過斯」の部分です。

前回までの部分は、仏さまが私たちを「必ず救う」とはたらかれ、それをよろこぶ者の姿について説かれましたが、今回の部分はそれとは逆の姿で、仏さまのお救いを信じるのが難しいと説かれています。

「邪見」とは、よこしまな見解であり、正しい因果の道理に背き、自分勝手な見解のことです。「驕慢」とは、おごりたかぶる心で、自分がすぐれていると思ひ、他の意見や教えを聞く耳を持たないことを言います。どちらも、「そのままであえからず、必ず救う、我にまかせよ」という仏さまの願いを、そのまま受け入れず、疑っている姿の者でありましょう。

私たちは普段、自分の経験してきたことが一番確かだと思つて生活しています。たしかに、これまでの経験から、仕事でも家庭でも上手いくある種の方程式のようなものがあるでしょう。私の妻であるならば、花を時々贈れば可愛らしい笑顔を見せてくれる、マカロンを買ってくればよろこんでくれる、アレをするとな機嫌が悪い、と言つた具合でしょうか。

一方、まだ経験したことの無いことはどうでしょうか。どこか不安で一步踏み出せず、今までの経験から判断を勝手に下してしまいがちであります。しかしながら、小さな子ども達は、経験していないことにも臆すること無く飛び込んでいく場面をよ

く見ます。初めての保育園で、すぐにお友達ができるというのも良い例です。大人になればなるほど、仲間と打ち解けるのに時間がかかったりするものです。

同じように、まだ見たことも経験したこともない極楽浄土があるよ、と私たちに勧めてくださっても、お念仏一つで救われてまいるんだ、とお聞かせ頂いても、なかなかうなずけない姿がここにあります。それは自分の経験をたよりとし物事を判断している私の姿であります。「邪見」の者は「お浄土という世界なんてあるものか」と思ひ、「驕慢」の者は「自分の力でおさとりへ近づけるはずだ」と思ひ、仏さまの願いになかなかうなずけないのです。

仏さまは、おさとり目から見ると、浄土という世界がある、迷っているあなたを念仏一つで救おうとはたらいっているよと、私たちに伝えよう伝えようとしています。それがお経でありま。なかなか信じるこのできないこの私こそ、救いの目当てであるよと、願いをかけて私を喚んでくださっているのではありません。

仏さまの話に出会ふと言ふことは、「邪見」「驕慢」の心を持つている者は他の誰でもなく、この私のものでありました、その私を「救うぞ、まかせてくれよ」とお慈悲をかけてくださつている仏さまに出会ふことでもあります。

仏さまのお慈悲を信じているのが難しいのは、仏教が難しいのではなく、自分の都合で仏さまを理解しようとする私の側に問題があつたからではないでしょうか。疑う私をどこまでもどこまでも、救おうとなされている仏さま、その仏こそ阿弥陀仏という仏さまであります。煩惱に振り回され、仏さまを疑ひ、救われたいこの私が、念仏に出遇ひ、救いの目当てであつたと知らされ、必ず救われていく慶びを、改めてここに親鸞聖人は記されたのでありましよう。

さて、「正信偈」は親鸞聖人がおつくりになつた信心の歌であります。ここまでの部分は、『無量寿経』というお経に基づいて阿弥陀さまのお救いを慶ばれた部分です。ここから後に続く部分は、インドより中国、日本へと南無阿弥陀仏の教えを伝えてくださった高僧方のご指南によつて阿弥陀さまのお救いを慶ばれた部分が始ります。そのお話は、次回。

お稚児参り

11月の天気の良い日、子ども達が稚児参りに来てくれました。稚児参りは、仏さまへのご挨拶。かわいい衣装に身を包み、仏さまにその成長を奉告し、仏の子として手を合せる姿を有縁の方々へと慶ぶ場です。

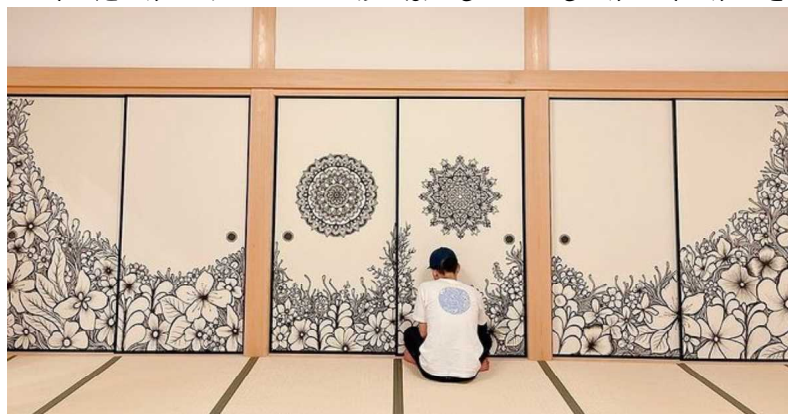
内容は、短いお勤め、仏さまのお話、焼香の十五分ほどで終わります。特に決まった日はありませんので、相談の上、参拝ください。身長などを教えて頂ければ衣装の手配を致します。



ふすま絵奉納

この夏、ご門徒の大塚康弘さんによって、書院の襖に絵が描かれました。大塚康弘さんの描く絵は曼荼羅のような微細画がベースとなった生命感あふれるもの。数年前にはアメリカニューヨークで個展を開催。心に映る文様を表現している。6月には大塚さん有縁の方々が集い、お披露目会が催された。

絵の感想は見る人それぞれ。多くの方の目に触れてもらい様々に思いを交えてくれることが楽しみ。ご先祖がこの絵を見たら何と云うだろうか。慶んでくれればと、語ってくれた。



秋山さん制作の藍染の襖絵とあわせ、尊光寺の新たな名所になりました。どうぞ参拝の折に御覧頂ければと思います。

法要・行事のご案内

コロナ対策のため、法要・行事の際はマスクするなど咳エチケットにご協力ください。また消毒液を置いてありますのでご利用いただき、手洗いをこまめに行いましょう。

◎ 報恩講は表のご案内の通りです。

◎ 除夜の鐘

【12月31日】夜11時40分頃よりつき始め
 どなた様も、一緒に除夜の鐘をつきましょう。お念仏とともに新たな年をお迎えください。

◎ 春の彼岸会永代経法要

【3月21日(月)】午後1時 法要・法話
 【3月22日(火)】午後1時 法要・法話
 ※22日は仏教婦人会総会を兼ねてお勤めいたします。
 【法話講師】藤井真隆 師(香川県)

◎ 本山・大谷本廟参拝団

【日帰】5月29日(日) 費用15000円
 【二泊】5月29、30日 費用35000円(岐阜方面)
 ※新型コロナウイルスの影響等により予定が変わる場合があります。分骨納骨や法名授与などご相談ください。



徳島新聞カルチャーセンター

新春特別講座

仏教講話「南無阿弥陀仏の仏さま」

新たな年の始まりを「南無阿弥陀仏」のお念仏とともに迎え、確かな足どりで歩んでまいりましょう。

【日時】：1月22日(土)13時30分～15時
 【持参品】：筆記用具
 【費用】：2750円

(特別講座は入金金なしで受講できます)

【講師】：副住職 赤松信映
 【教室・申込先】 徳島新聞カルチャーセンター徳島本校

徳島市寺島本町西1-5アミコ東館7階

TEL 088-611-3355

副住職担当、徳島新聞カルチャー教室のご案内

各講座、受講生募集中です。

■ 仏教講座『御文章(ごぶんしよう)』

「聖人一流の」。浄土真宗中興の祖、蓮如上人が門信徒へ宛てた手紙が『御文章』です。宗祖、親鸞聖人の念仏の教えをやさしく説かれた『御文章』を、原文に沿って読み解き、仏教とは何か、念仏とは何か、一緒に学んでまいりましょう。

● 毎月第3金曜日 10時半～12時 月額 3300円

■ 親鸞聖人と『歎異抄(たんにしよう)』

「悪人こそが救われる!?!」『歎異抄』には昔から多くの人々の心をひきつけてやまない言葉が詰まっています。人間らしい矛盾を抱えながら生き抜かれた親鸞聖人の言葉を丁寧に読み解きあじわってまいりましょう。

● 毎月第2月曜日 13時半～15時 月額 3300円

【教室・申込先】 徳島新聞カルチャーセンター徳島本校

徳島市寺島本町西1-5アミコ東館7階

TEL 088-611-3355

徳島新聞カルチャーセンターは、徳島本校(川内)と徳島駅前校(アミコ九階)がひとつになり、徳島駅前アミコビル七階に移動し、新しく徳島本校としてスタートしています。



Tokushima Shimbun CULTURE CENTER

令和4年 年忌表

令和4年の法事と亡くなった年

1周忌	令和 3(2021)年
3回忌	令和 2(2020)年
7回忌	平成28(2016)年
13回忌	平成22(2010)年
17回忌	平成18(2006)年
25回忌	平成10(1998)年
33回忌	平成 2(1990)年
50回忌	昭和48(1973)年
61回忌	昭和37(1962)年
100回忌	大正12(1923)年
150回忌	明治 6(1873)年
200回忌	文政 6(1823)年
250回忌	安永 2(1773)年
300回忌	享保 8(1723)年

過去帳やお位牌をご覧ください。

尊光寺 宗祖親鸞聖人

御正忌報恩講法要

令和三年(2021)年

【十二月十八日(土)】

午後一時 お勤めと法話

午後五時 お齋(食事)

午後六時 大速夜法要 お勤め・御伝鈔拝読・法話

【十二月十九日(日)】

午前十時 門徒総永代経法要 お勤めと法話

お昼 お齋(食事)

午後一時 報恩講御満座法要 お勤め・御伝鈔拝読・法話

【ご講師】

本願寺派布教使 川上順之師

(広島県神石高原町 法泉寺)

布教使としてバリバリ活躍中のイケメン。

優しい語り口調で、難しいと感じる仏教の

話もスツと心に届くと評判の若手の先生で

す。どなたさまも、ぜひお参りください。



■報恩講とは

報恩講は宗祖親鸞聖人のご命日(ご正忌)を縁として、阿弥陀如来のお救い

を味わわせていただく法要です。正しくお念仏のいわれを聞き、身にいただいて、真

実信心の行者になることが聖人のご恩に報いる道であり、この法要は浄土真宗門

徒にとつて最も大切なお勤めです。

親鸞聖人のご命日は弘長二年十一月二十八日(西暦1163/116)であり、尊光寺では十二月第三日曜日とその前日(令和三年は十二月十八日と十九日)にお勤めします。

■御伝鈔拝読

本願寺第三代覚如上人は、親鸞聖人のご遺徳を讃仰するために、その生涯を文章と絵で交互に描いた絵巻物をつくられました。後に、文章と絵が分けられ、それぞれ『御伝鈔』『御絵伝』と呼ばれるようになります。

報恩講の折に、この「御絵伝」(四幅)を南余間にお掛けし、『御伝鈔』を拝読して宗祖のご生涯をしのばせていただきます。副住職がスクリーンにて解説します。

■お齋(食事)

尊光寺では、報恩講参拝のお接待として、参拝の皆様に進進料理が当番より支度されます。予約などは不要です。どなたさまも、お参りされ、どうぞ伝統のお膳にお着きください。(十九日の昼)

■執行当番

本年(令和三年)のお当番は、八幡組(大野島・八幡・定松・伊月・山野上・切幡・古田)です。どうぞよろしくお願いいたします。

※新型コロナウイルス対応として、手洗いうがい、マスクを着用なさるなど、十分にお気をつけてお参りください。お寺は程よく換気されております。

